



THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

REGION ワイズメンズクラブ国際協会西日本区
JAPAN WEST



EMC事業通信第2号

2015年8月20日発行

2015-16年度EMC事業主任

とともに
小野 勅紘(六甲部西宮クラブ)

【今月の目次】

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1. 第26回アジア地域大会 in 京都 | 4. 「EMCの窓辺でちょっとブレーク-2」. |
| 2. 2015年7月1日付集計(半年報) | 5. 「EMC事業主任の大きな一人言-2」(編集後記) |
| 3. 各部EMCシンポジウムの開催 | |

第26回アジア地域大会 in 京都

2015年7月31日～8月2日の間、京都都ウエスティンホテルにおいて、第26回アジア地域大会がアジア各地から911名をお迎えして華々しく開催されました。

7月31日の第1日目は午後から、開会式をはじめ、岡野泰和直前アジア地域会長(大阪土佐堀)、オリバー・ウー前会長、門川大作京都市長の各挨拶があり、ウィチャン国際会長(タイ)はじめ、国際会計、エドワード・オング新アジア会長(シンガポール)の執行役員就任式が挙行され、次いで山田公平アジア・太平洋YMCA同盟総主事(山田氏はこの度退任)のお祝い挨拶、ウィチャン新国際会長の就任挨拶と主題・方針が披露された。

その後は元宇宙飛行士の毛利衛さんによる基調講演があり、「宇宙からの贈り物」と題して、宇宙飛行士として過ごした日々の貴重な体験がユーモアを交えて語られました。その後活発な質問にも笑顔で答えらた。

夜は京都祇園甲部はじめ7か所の花街からの舞妓さん芸妓による艶やかな舞が披露され、PAP(アジア直前会長)主催の晩餐会、フェローシップアワーと夜遅くまで交流の時間が続きました。



2日目の午前は分科会があり、「1. YMCAとの協調」「2. ユース支援」「3. アジア地域のエクステンション」「4. CSとNDERE」の4つの課題で話し合われました。私はお役目柄、3. のエクステンションの分科会に参加しました。デービッド・ルア アジア地域書記(シンガポール)の司会で各国から約60名が参加し、アジア地域でのエクステンションについて熱く語られました。前日にウィチャン国際会長から発表された2014年国際議会における決議事項の「VISION 2022」に言及し、現在国際では1,964クラブで、29,650名の会員を、7年後の2022年のワイズ100周年には、3,000クラブ+50,000名に増員しようというものです。これには毎年3,000名増員して行って達成出来るもので、現在より65%増員しようというものです。このためには次の3要素が必要であるとのこと。それは「時間」「人材」「献身的努力」。また台湾区のリン氏は、ワイズのメンバーになる以前に、「YMCAの理解」が大切であると語った。それには「地域のニーズを見つけること」→「サポートするための人材探し」→「サポートするワイズメンズクラブ探し」でメンバー増強に繋げることが必要とされた。この「YMCA理解」については、7月に順次



開催している「各部EMCシンポジウム(研修会)」でも出ている「キー・ワード」ですので新鮮であった。ワイズの目的として、奉仕と親睦・交流はワイズの中では大変重要な2本柱ですが、この「YMCA理解」は、さらに第3のキー・ワードとしてワイズの根幹を支えるミッションでしょう。尤もYMCAをサポートするワイズにとっては、根底の活動のように思われ、この目的は他の組織と一線を画する活動でしょう。

午後は各方面に分かれて7か所のエクスカージョン。私は炎天下を避けて、比叡山延暦寺で座禅に挑戦した。「身・息・心」を一(いつ)にすることは20分でも悟りには至りませんでした。詠んだ句は「台湾の人と組み合ふ土用禅」。夜はAP(アジア地域会長)主催の晚餐会。ジャズの演奏の後、国際表彰を経て晩歳会に入り、ユースコンボケーションの紹介とJ soulbrothers のダンス‘流星’が披露され、続いては“Let's party bigin”の合図とともにダンスタイム。岡野直前アジア地域会長と可愛いお嬢さんとのダンス。会場内はダンスタイムの坩堝と化し、最後は沖麻美AYC代表率いるAYCのメンバーで‘YMCA’の歌で締めくくった。締めは「夏草や兵どもが夢の跡」でしょうか。

最後の3日目は早天礼拝の後、各種報告、次回第27回アジア地域大会(シンガポール)、次回第72回国際大会(台湾)のアピールがあり、閉会式で閉幕。多くのクラブで、その後IBCやDBCの集まりが持たれたようであった。

2015年7月1日付半年報の数字

2015年7月1日付半年報結果の数字は理事通信7月号に掲載されておりますように、**1530名**と前年度、前々年度から大きく減少しました。今迄提出された会員異動報告書並びに7月末付、EMC集計表によって照合作業を行っておりますが、例年の通り中々一致しておりません。照合の上、EMC集計結果を2015年7月分より別途掲載してまいります。前年度までの「3か月毎の報告」から今期は「**毎月の報告**」に変更いたしましたので、各部、各クラブのEMC事業担当者の皆様には混乱や雑多な作業をお願いしておりまして申し訳ありません。この時期を乗り切って定例の報告に戻りますと慣れてくるのではないかと思います。多忙なこの時期、どうかEMC事業促進のためにご協力いただきますようお願いいたします。

▼EMCシンポジウム(研修会)

九州部評議会(EMCシンポジウム+懇親会)

日時: 2015年7月5日(日) 10:30~16:00(評議会・シンポジウム)
17:00~20:00(懇親会)

- ・年度方針と長期方針を説明。
- ・長期方針のY'S MEN'S WINDOWS100(→2022)構想の中の実行計画とドロップへの意識アンケート結果。「多忙」「高齢化・健康上の理由」への対抗として「優先度(Priority)」と「若返り(+健康)」。一人が一人を連れてくるワイズと満足感の関係。優先度の高い例会・魅力的な例会によるC(意識高揚)の実施など。
- ・吉本ワイズからは出席率やワイズ低迷の影にはブリテンの質も影響されているのではないかとこのサジェスチョンあり。
- ・遠方ワイズからは懇親会の会費低減へのお願いがあった。
- ・2000推進チーム解散による余剰金の使途として、新規チャータークラブに各10万円を贈呈。

会場: 熊本中央YMCAジェーンズホール(評議会・シンポジウム)

ホテル日航熊本(懇親会)

- ・懇親会席上阿蘇クラブ大木麻里子さんの入会式があり立ち合った。



瀬戸山陰部EMCシンポジウム(評議会)

日時: 2015年7月11日(土) 11時~12時45分

会場: 姫路市労働会館

- ・今期の年度主題と長期主題を説明。増員(M1)の一方、ドロップ(M2)の重要性。

- ・Y'S MEN'S WINDOWS100(→2022)の説明と実行計画。瀬戸山陰部各クラブの特性説明。
- ・人間関係図とEMC対策リスト。
- ・2000推進チーム解散による余剰金の使途。新規チャータークラブのお祝い金として1クラブ100,000円を贈呈する。
- ・鳥取クラブからは会費の負担と意義の問題が提言された。
- ・岡山クラブ三浦ワイズからは、EMC事業の根底には「YMCA理解」がなければならない示唆があった。

六甲部第1回評議会(兼EMCシンポジウム、合同納涼懇親会)

日時: 2015年7月25日(土)14:00~20:00

会場: グリーンホテル神戸

- 六甲部のEMCシンポジウムは、第1回評議会に併せて安行EMC事業主査の司会により開催されました。六甲部は前年度に「六甲部EMC200推進チーム」が出来て活動が開始されたばかりであるが、前年度、前々年度ともに大きく会員を減らして、目標の200から離れていく傾向にある。
- まず最初に九州部、瀬戸山陰部でもお話ししたように、今期の年度主題と継続性を強調するために設けた、長期主題の説明をした。その上で長期主題の目玉である、7年後のワイズ2022年に向けたコンセプトである、“Y's Men's Windows100(→2022)”とその根拠、また2022名達成に向けた割付計画を開示した。**要は全てのクラブが同じレベルで活動するのではなく、クラブ独自の持てる長所、短所といった持てる体力に応じた活動**をお願いした。会員数10名のクラブが1名増員する体力と、60名を越える大クラブが1名増員する体力は同じではない。また10名のクラブが倍の20名にすることは、60名のクラブが120名に匹敵する。こういうことからそれぞれのクラブの特色(体力)を生かした工夫をお願いしたい。

- 1時間のシンポジウムの間半分を講演と説明に、残りを皆様からの質疑応答や、自由討議に充てた。

(主な質疑応答とご意見)

- ・ユースからの勧誘というが、具体的にどうすればよいのか。→我がクラブの西宮クラブの例で申し上げますと、西宮クラブはかつて約6名位に落ち込んだ時期がある。それをかつて西宮YMCAの館長を務められた山口徹元総主事や、Yの主事でもあった山口政紀さんたちが、かつてのYMCAの少年部リーダーOBOGに声を掛けて増員を図っていった、したがって現在でも西宮クラブのリーダーOBOGは約80%に至っている。
- ・少数のクラブは一体どのように再生を図っていけばよいのか。→現有メンバーの人脈で増員を図っていく体力を考えると、非常に厳しいものがある。今回の計画でもお願いするように、クラブの体力に合った形で地道に上げていくしかない。合併や合同例会なども考慮されたい。
- ・かつての余島OBOGなどを中心にヤングクラブを立ち上げオウという動きもある。→かつてユースリーダーが卒業する時の感謝会などに出かけてアピールしたが、卒業したり、結婚したりするとYから離れて行きリピーターとならないのは残念である。
- ・かつて新クラブをチャーターしようと努力したのに潰されてしまった。クラブ内に協力しようという資質が感じられない。→充分体力がない内のチャーターは危険であり、出身クラブも巻き込んで共倒れになる危険性がある。チャーターはクラブを分割するのではなく新たな人脈を造ることで慎重に運ばねばならない。京都のクラブでは60名を越えていても100名になるまで、新規チャーターはしないとのことであり、チャーターによるクラブの分裂を避けるものでしょう。
- ・その他多くの意見が活発に出て有意義な討論であったので、そういったご意見を今期の活動に活かしていきたい。



EMCの窓辺でちょっとブレイク-2

今期のEMC活動は基本的には全員参加の活動にしたいと思っております。全ての皆様のノウハウを惜しみなくご披露いただき、そのご経験や足跡を共有していきたいと思っております。そこで、全ての9部からかつてEMC事業に対して経験豊富なワイズメンの歴史を語っていただき、全員で共有したいと思います。毎月連載でそういった歴史を掲載していきたいと思っております。今月ワイズ歴史を語っていただくのは、中西部の森本榮三ワイズ(大阪高槻)です。

★★★次月以降の予定★★★

2015年 9月号 九州部 菅 正康ワイズ(熊本ひがし)
10月号 阪和部 11月号 六甲部 12月号 中 部
2016年 1月号 瀬戸山陰部 2月号 京都部 3月号 西中国部
4月号 中西部 5月号 びわこ部 6月号 九州部



「やる気」で会員獲得・退会者ゼロ



中西部大阪高槻クラブ
森本 榮三ワイズ

近年、NPO、NGOなどボランティア団体の多様化は顕著で、ロータリー、ライオンズ、JCなどの間で会員獲得競争になっています。ここでは『本気』と『やる気』で会員増強に成功した例、退会者ゼロのヒントを紹介したいと思います。

【会員増強】

会員はクラブにとって大切な血液です。会員増強はクラブの未来を託す“人”を育てる重要な奉仕活動。良い人材、良い指導者、人のために尽くす担い手を増やすことでクラブの存在価値が高まります。

1. 会長はキーマンです。会長をトップに全会員で1班/3人程度の班編成をしましょう。
会員増強にかける会長の情熱と発信するメッセージで会員の心を動かしましょう。
全員で前向きな討論をしましょう。そのことを次年度、次々年度に繋げましょう。
2. 具体的に3年後、5年後の増強目標を設定し全員がベクトルを合わせましょう。
3. 商工会議所、青年会議所、青年部、自治会、同窓会、取引先、医師、弁護士、会計士、税理士、元会員の再入会促進、休眠会員の後継者、女性会員などの勧誘リストを作成し、会長・会員全員が理解した上で「声かけ」勧誘の努力をしましょう。
YMCAの公開行事に積極的に参加し、参加会員の父兄を誘ってみるのも一手です。連絡主事との対話、リーダーとの交流が欠かせません。
4. クラブの活動が分かり易く説明できる資料を、パソコンを使い慣れた会員の協力を得て作成しましょう。A4サイズの冊子で、活動内容が良く分かる写真や説明を多用し、ブリテン、その他クラブを紹介する資料も一緒に綴じ込みましょう。

【退会者ゼロ】

クラブの中に「参加意識が低い。単に例会に顔を出しているだけ」といった人はいませんか。過去の退会理由のアンケートで上位を占めていました。例会に来られた会員同士が一言でも声を交わすことは大切なことです。

会員の規模に応じてテーブルを、対面形式、コの字形式、口の字形式に配置して、参加者の顔が見渡せるようにして、対話が弾んだ例もあります。(私語が増えたそうですが…)

例会の中でニコニコの際に「嬉しかったこと」「報告したいこと」など一言、声に出してからニコニコするのも参加意識向上に繋がり、話題提供になります。

毎例会、1人だけ1分間のスピーチをするのはどうでしょう。1分間で話すには、話す内容を吟味して来ないといけま

せん！ リーダートレーニングと位置づけ実行されたらどうでしょう。「本気」と「やる気」でクラブを活性化しましょう。
1997－98年度EMC事業主任、2006－07年度西日本区理事

EMC事業主任の大きな一人言－2

第26回アジア地域大会in京都がアジア各地から911名をお迎えして、盛会に開催され成功裡に終了しました。開催まで時間とプログラムなどに傾倒いただいた京都部大会実行委員会の皆様には本当に感謝いたします。ありがとうございました。

私は2日目午前の分科会では、お役目柄からEMC関連のセクションである「③アジア地域でのエクステンション」に参加しました。この課題は、前々回台湾で開催された第24回アジア地域大会等でも取り上げられたテーマでもあります。アジア地域はご存知のように、約4000名のメンバーがいますが、その多くの3000名近くはわが国の「東日本区」+「西日本区」が占めており、確かに他のアジア地域で、未だワイズメンズクラブが存在しない国が沢山あります。政治体制や宗教上の問題で中々早期には解決出来ないことは事実でしょう。

しかし、YMCAの理想的ミッションである、「青少年の健全な育成活動」は多くの国に確実に拡大しているように感じます。ワイズの若い芽を繋いでいくことはYMCAの根幹であり、そのサポート役であるワイズの基本ミッションであることは間違いありません。奇しくも分科会で台湾のワイズから「YMCA理解」の話がでたのは、地域、区、部、クラブといった壁を超えても共通の認識であったことは嬉しいことです。そういったことが聞けたこともアジア地域大会に参加した収穫であったと思っています。

夏期の休暇時期や納涼のひと時を挟んでいよいよ、部会をはじめとする秋のワイズイベントラッシュを迎えます。それまで健康に留意して各部の皆様にお会い出来るのを楽しみにしております。(小野)